

○構音分科会 西郷小 小関みのり先生

- ・「初めての歪み音指導」ということでしたが、1つ1つの段階をととても丁寧に指導されていて感心しました。舌の脱力は時間がかかりますし、その次に舌を口腔内に入れても平らに保てるようにする（そういう舌を作っていく）のも時間がかかります。すぐには成果があらわれず、本人のモチベーションを保つにも工夫がいります。大変ですが、時間はかかるかもしれませんが、ぜひこれからも根気よくご指導ください。発表ありがとうございました。
（ちなみに私のお勧めは「構音障害の臨床」（阿部雅子著）金原出版と日言研での山下夕香里先生の「側音化構音・口蓋化構音の指導」です。参考までに。）
- ・側音化構音の指導についてなかなか進歩が見られずどうしていったらいいかと考えていた時に先生の資料をいただき、まずは舌の動きをしっかりと見てみようと思えました。また、体の動きがぎこちないことも思い当たり、全身運動も取り入れてみようと思えました。トランポリンやフリスビーを投げることはよくやるのですが、他のアイデアもやってみたいです。コロナ禍で担当になったため、お菓子はなかなか怖くてやる事ができません。もう少し安心できる状況になったらいろいろなお菓子を使って舌をなめらかに動かす指導をしていこうと思います。
- ・側音化構音がある子供の指導がとても分かりやすかったです。特に、舌を丸く脱力させる指導と、「チ音」の誘導が参考になりました。丁度、「チ音」が「キ音」に置換されている子が通級しているのですが、チ音の誘導の仕方が分からず悩んでいました。さっそく指導してみようと思います。また、舌の脱力の維持を10秒ほどしかやってこなかったため、「チ音」の誘導のために、もう少し長くやってみようと思えました。・聞きとりの際、iPadの「ボイスメモ」で録音し、一音ずつ再生しながら子どもに聞きとり書きをさせるのが、とても良いと思えました。発達通級でも、「お話タイム」や「話し方トレーニング」をするのですが、録音してそれを児童と共に聞き、振り返りをする活動を取り入れたいと思えました。
- ・丁寧な実態把握をされていることが効果的な指導につながっていることを感じた。先生の指導方法を今後の指導の参考にさせていただきたい。
- ・側音化構音の指導は幼児でも行っているのが、大変参考になった。
- ・舌の体操を継続して行うこと、脱力の舌の静止がとても重要で、実際の方法も教えていただいたので、自分の実践で活用したい。
- ・舌の脱力の大切さを改めて感じた。わかりやすくまとめてくださったので、実践する時に参考にしたい。
- ・幼児では、側音化構音の弁別（他声音も自声音も）が難しいというのを、今までの指導の中で実感しているが、舌の脱力や顎を真下へ正しく開く等、口腔機能面の育ちにつながる指導は行えると思う。先生の指導を参考に、今後個にあった指導方法を考えていきたい。
- ・初めてことばの教室の担当になって、毎日悩みながら取り組んでいる指導を、とても分かりやすくまとめていただいていたので、大変有り難い発表だった。
- ・側音化構音、歪みを持つ児童に対して、どのように構音を獲得していくかが段階的に丁寧に書かれていた。歪みの原因は舌の緊張であるため、舌を脱力した状態をつくるための指導を丁寧に行うことが大切であると感じた。また、そのためには体の使い方も関係してくるため、粗大運動や微細運動も並行して行っていきたい。
- ・写真付きでわかりやすい資料でした。側音化構音の指導について流れがよくわかり、参考になりました。活用していきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・側音化構音は、舌や顎の動き、呼気の出方を意識させることがとても大切だと思います。先生の指導

法の紹介は、とても具体的で分かりやすかったです。また、同じ課題を繰り返し行うことを嫌がる子が多いため、飽きずに続ける工夫も今後の指導に取り入れたいと思います。

- ・ 幼児のときに、通級歴がないことが気になりました。気付きにくい障害であるためでしょうか。自力で治すことは難しいですが、長期化することも多いです。保護者の負担を考えると、通級開始時期はいつが適切か、考えさせられました。
- ・ 側音化構音の指導はとても難しいですが、舌の脱力がやはり大事なんだと改めて感じました。舌の脱力をするために様々な工夫がされていたのが良かったと思います。最初は舌の緊張がとても強かったのに、数ヶ月で脱力した良い舌の状態になっていたのは、驚きました。
- ・ 側音化構音は、「さ行」などの機能性構音障害に比べると、意外と園の先生には気づかれにくい構音障害の気がします。母親が多少気になっていたという経緯があるので、気軽にどこかに相談でき、側音化構音だと分かっていたら、もう少し早く就学前に支援が開始できたのではないかと感じました。
- ・ 評価や指導手順を詳細に計画されており、順調に改善されている様子がよくわかりました。「初めての歪み音」というのは、小関先生にとって初めての指導という意味でしょうか。初めての指導でありながら、丁寧な看取りと多角的な練習をされていると感じました。多くの研修に裏付けられたものなのだろうと頭が下がります。
- ・ 一年間を通した指導の流れがわかりました。継続して行わなければならない舌の脱力練習を、駄菓子やおはじき等を使って工夫していて、これなら楽しく取り組みそうだなと思いました。
- ・ 子どもへのていねいなアセスメントや工夫した指導などこれからの自分の指導に参考になる内容でした。
- ・ 「チ」「ツィ」と構音するような近い音をつくっていくことがありますが、少し不自然な発音になり、「ツ」→「チ」に変わっていかず悩んでいます。
- ・ 以前私もことばの教室を担当していましたが、側音化構音(歪み)の指導はいろいろ悩みました。iPadのアプリ「ボイスメモ」で録音するのはとてもいいですね。通級で指導したことを家庭でも繰り返し短時間でも毎日やっていただくと、習慣化して改善が見られます。スマホの機能でも録音機能があるので、家庭でも実践していただくことが早期改善につながると感じました
- ・ 昨年度、今年度はコロナ禍ということもあり、なかなか駄菓子を使った指導に踏み出せていません。今後、マスクの無い生活ができるようになったら、ポン菓子やおせんべいを使って指導をしてみたいと思いました。
- ・ 緊張した舌が柔らかい舌に変化するなど経過の写真が何枚も添付されていて丁寧なアセスメントに基づいた指導の実際がとてもわかりやすかったです。「だらーんの舌」「おばけの舌」の呼び名も使わせていただくとう思います。
- ・ 先生の発表を読ませていただき、側音化構音の指導においては、やはり舌の脱力と安定を根気強く続けていくことが大事であると改めてわかりました。ただ、この根気強く続けることが、普段の私の指導の課題の一つでもあるので、先生がされているご指導の工夫を今後参考にさせていただき実践していきたいと思います。コロナ禍のマスク生活のため、構音障害や側音化構音であることが周囲から見過ごされている子どもがいるのではないかと、またこれから増えるのではないかと不安を感じました。また、感染症対策に気をつけた指導となり、なかなか指導が進まないのも現状です。マスクを取らないという指導が今後必要になってきた場合、どういった指導ができるか、模索中です。まずは、自分の聞き分けられる耳を鍛えたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 幼児は舌に意識を向けることが難しいことから、お菓子を使って指導する良さを改めて感じました。(私達の市ではお菓子の使用は禁止されています。)
- ・ 大変参考になりました。私は、構音検査で「歪み音」が、最も難しく感じます。それは、発表で小関先生が書かれていらっしゃるように「歪み音が聞き分けられるか。」また、「指導者が、その音を示すことが大変難しい。」ことにあります。

耳鼻科医による言語検診判定で、ことばの教室に相談されたお子さんが複数いらっしゃる事が大事

だと思いました。専門家が力を貸して下されば、お子さんも保護者も必要性を感じ意欲的に指導を受けます。先生の初回通級時検査も丁寧で、iPadの「ボイスメモ」で録音・再生し、聞き取り書きをさせることは、指導者の聴覚に頼る構音指導を視覚化して、指導のポイントが明確になります。舌の脱力維持や下顎を真下に開く手立ても素晴らしく、早速行いました。お子さんが苦手な「エ、イ」ではなく、英語の[e, i]音と意識させたことも、指導の中で取り入れたいと思います。

- ・ていねいな御指導の様子が伝わってきた。
- ・わかりやすく、伝わりやすいプレゼンだった。
- ・側音化構音は、改善に時間がかかり、終了のタイミングがむずかしい。各個人にも違いが大きい。今後の指導の参考にしたい。
- ・舌の脱力を子どもが嫌がらず練習を継続していくことの難しさを感じています。舌の脱力の指導が詳しく説明してくれてあるので、とても参考になりました。今後の指導でやっていこうと思います。
- ・子どもの特性に合わせてあらゆる角度から粘り強く関わっておられたのが印象的で、とても刺激をもらいました。子どもも、先生の思いに応えるように成長していったのでしょうか。知識も大切ですが、関係性も大切だなと感じながら発表を拝見していました。スライドもとても工夫されていて分かりやすかったです。授業だけでなく、発表の準備までありがとうございました。
- ・「側音化構音」と診断するまでの、細かなステップを踏んだ検査は大変参考になった。それをもとにした「前期指導計画」による「柔らかくてまあるい舌」づくりの指導も、児童自身が「できた」「そういう形か」と自覚できて効果的だと思った。
- ・小関先生が最後にまとめられているとおり、なかなか正音が出るようにならなかったり、指導がマンネリ化してしまったりして、自分の指導力不足を痛感している。今回の小関先生の実践は大変参考になった。
- ・側音化構音を判断するまでの様々な検査・分析・判断・説明は、なかなか大変なことだと思っています。舌の指導については、時間をかけ、子どもの意欲が持続する工夫をし、舌の形が整うまで指導することの大切さがよくわかりました。指導の工夫、勉強になりました。
- ・大変な中、発表していただきありがとうございました。側音化構音のお子さんの指導はなかなか進まず、私も頭を抱えることが多いです。いろんな工夫をされていた先生のご指導を参考にさせていただこうと思います。
- ・舌の脱力、安定が基本だなあとつくづく思った。息を正中溝から出すことを意識させたい。
- ・発表にあたり、小笠地区の先生方がご指導くださったことが伺われる。ありがたい体制であると思う。
- ・身近にある駄菓子を教材として扱うアイデアがとても良いと感じました。駄菓子なら子どもたちも興味をもって指導を受けるし、楽しみながら取り組めると思いました。特に、ペロペロキャンディーをのせ、理想とする舌の形になった瞬間に鏡で見て確認する指導からは、子どもに今何を学んで何を身に付けている指導なのかを認識させることが重要だと学びました。私も、指導をする際には、子どもに目的意識をもたせて行いたいと思います。
- ・イ列に側音化構音がある児童の構音指導について、特にイ音とチ音の誘導の指導法がわかりやすく、参考になりました。苦手意識の音だと思わずに新しい音と認識させて練習するのがコツであることは、風の音の指導と共通している部分がありました。また、側音化構音の改善の土台は「舌の脱力と安定」であることは、Sの音でも共通していることであり、やはり舌の脱力と安定はどの音に対しても大切な基礎であることを深く理解しました。小関先生の舌を脱力させる取り組みについて、脱力している時間の分だけ視覚化・動作化して評価するというアイデアは、指導者も児童も楽しく取り組める良いアイデアだと思いました。私もその方法を取り入れて、脱力維持を60秒、児童と楽しく目指していきたいと思いました。
- ・とがっていた舌が「柔らかくてまあるい舌」になっていて、この舌の美しさに感動した。

- ・初回相談の丁寧さと、基本の構音指導の丁寧さ、参考になった。
- ・本人の音や正誤への意識がどれくらいあったか知りたい。
- ・指導計画の中に、聞くことの指導も入っていたと思うが、どのような練習をしているのか知りたい。
- ・側音化構音の指導のタイミングはとても難しい。1年生のこの子にとってベストなタイミングだったのか、どこまでできることを目標とするかとても悩む。
- ・自分は発達通級です。先生の実践のまとめを拝読して、言語通級でのアセスメント（実態把握）から指導目標→指導方法 指導内容→ステップアップ→改善 の流れと具体がとてもわかりやすかったです。ことばの教室の先生方の専門性が引き継がれていくことが、どの市町にとっても必要なことだと感じました。
- ・舌の形、口の開け方など、側音化構音の実践がとても分かりやすくまとめられていたので、指導の参考になった。私の担当している児童もイ列音に課題があるため、iPadの「ボイスメモ」で録音する活動を取り入れてみたいと思った。
- ・側音化構音の指導の難しさは、日々感じています。舌を平らにするとといっても側音化の子供はなかなかできず、苦戦する日々です。小関先生の発表を読ませていただいて改めて、時間はかかっても舌の脱力や舌平らを繰り返し練習することが大切だと感じました。今後もめげずに、子供たちと繰り返し練習していこうと思います。
- ・幼児での側音化の指導はほとんど行えませんが、今回の資料を読んで幼児にも準備段階としてやれることはたくさんあると改めて感じました。
- ・舌の指導は大切だということを感じ、ていねいに行っていきたいと思います。体を動かすことも「ことばの発達ピラミッド」を見て、言葉に大きくかかわっていると感じました。
- ・幼児でも歪み音の指導はあるが、舌の運動やお菓子を使った脱力の練習等似ている部分も多くあった。側音化構音改善の土台となるのは「舌の脱力と安定」であるが、単調な指導になりがちであるため、ゲームや双六に風の音や舌の運動等の遊びの要素を取り入れながら飽きない工夫が必要だと痛感している。また、お菓子を使った舌の運動は家庭でも楽しみながら取り入れることができるため、家庭の応援も上手に取り入れながら指導していきたい。
- ・お子さんと共通認識を持ちながら指導を進めているところが大切だと思った。
- ・指導開始時のお子さんの自覚や本人が改善をどれくらい希望していたのか知りたい。
- ・舌の動きや音の様子をととても細かく確認して苦手なところを把握し、指導に生かすことができている。ポン菓子やキャンディーなど上手に指導に利用している。
- ・小関先生は、子どもの状態に合った計画を立て丁寧に地道に実行されていて、自分も計画を立てるときの参考にしたいと思いました。舌の脱力の練習は歪みの指導に必要な練習ですが、単調な練習になりがちで幼児が飽きやすいのが悩みです。小関先生は、子どもが舌の脱力の練習を楽しく継続できるように工夫されていて、自分も指導に取り入れていきたいと思いました。（幼児ことばの教室担当）
- ・側音化構音は学齢の通級児に多く、またかなりクセが強くなっている状態であることがあります。舌の脱力が難しい子や、どうしても顎が動きがちになってしまう子に悩んでいます。小関先生の発表では、脱力、脱力補助、下顎の意識のさせ方などとても丁寧にまとめられていてわかりやすく、すぐ指導に取り入れさせていただきました。「奥歯をがっちゃん」が特に子どもに伝わりやすく、顎がずれても子どもが自分でなおすことができました。また、指導計画も子どもの実態に合わせて立案されていて、とても参考になりました。ありがとうございました。（学齢ことばの教室担当）
- ・初めての歪みの指導ということでしたが、iPadの使用や、お菓子を活用するなど、子どもたちが効率良く自分から学んでいける仕掛けがあり、小関先生の児童に向かう姿勢や、実践が素晴らしいなと思いました。
- ・脱力維持のための工夫や指導方法が大変参考になりました。
- ・指導をしていると短期間で結果を求めたくなりますが、長い目で見て、焦らずにじっくりと向き合うことの大切さを、改めて実感しました。

- ・具体的な口の動きを交えた指導方法や成果があり、素晴らしい実践だと思います。
- ・個別の指導計画がなかなか活用できないが、小関先生の実践から個別の指導計画の大切さを学ばせていただいた。また、アセスメントの大切さも教えていただきました。
- ・歪みの実態を知るために、構音検査、一文字カードチェック、舌の体操で動きの確認など、様々な方法で実態を把握できることを知りました。今後、参考にしたいと思います。
- ・舌の脱力と安定を図る手立てを継続して取り組むことが、側音化構音改善に効果的であることがよく分かりました。すぐに実践できることがたくさんあり、大変勉強になりました。
- ・歪みはとても指導が難しく、幼児教室でははじめに保護者に時間がかかるとお伝えしています。舌という自分に見えない部位のコントロールなので、先生のおっしゃるようにならだづくりがたいせつだと考え、感覚統合遊びも多く取り入れるようにしています。
- ・舌の緊張をほぐす方法を具体的に知ることができました。ことばの発達は口元だけでなく、体全体の発達を伴って進んでいくことも初めて知りました。ありがとうございます。
- ・舌、唇、下あごなど構音の要素のどこに問題があるのか視点を絞ってみることの大切さがわかった。
- ・細やかな指導ステップが参考になった。
- ・利用した駄菓子や教材など具体的で参考になった。
- ・コロナ禍での発音練習には苦勞しています。波が来るたびにマスクも外せなくなり、子どもの舌の様子が観察できず、担当者の舌の形も見せられません。舌の写真を見せての指導には限界があり、悩んでおります。お菓子もここ2年は使用していません。そんな中、事例では1カ月で舌が脱力してきており、驚きました。早く通常の発音練習ができるよいです。
- ・コロナの前はお菓子を使って実践していましたが、使わなくなって2年、早く使えるようになってほしいと思っています。
- ・舌の脱力が何より大切であること、出したい音を出すために使える指導技術がわかりました。口の形は一人ひとり違っているから、基本の技術を生かしてその子でできるように工夫することも大切なのだと感じました。
- ・写真や資料、適切な説明により指導の流れがよくわかり、自分の指導でもう少しくすればよかったというヒントをいただいた気がしました。ただこういう発表だからやはり音声を聞いたり、映像を見たりしてお話が聞きたかったと思いました。
- ・歪み音の指導の進め方がとても具体的で分かりやすかったです。写真があるため、イメージがつきやすかったです。早速参考にさせて頂きたいと思います。
- ・実践例が写真で表示されていて、とても分かりやすく、今後の指導に活かしていきたいと思いました。
- ・側音化構音の指導の流れがとても分かりやすかったです。初回の検査で10項目挙げられていたのですが、1回で全てチェックするのか・・・とびっくりしました。検査項目2の掘り下げ検査というのは、単音の確認だろうか、と思いましたが、項目9とどう異なるのか、どのように行うのかを知りたいと思いました。
- ・イ音の誘導①のところで、声を出しながら手の活動を入れる。とあったが、具体的にはどんなことをさせていたのか知りたいです。
- ・側音化構音の診断ポイントや指導方法を初めて知った。
- ・下の脱力や呼気の流れの様子を写真で説明してあり、分かりやすくてよかった。
- ・改善の難しい側音化構音の具体的な指導事例が、大変参考になりました。やはり舌の脱力と安定なんです。担当している子が、ちょうど「チ音がキ音になる。」と言って指導している最中です。新しい音を作る意識で練習していきたいと思います。ありがとうございます。
- ・構音指導において舌の脱力は大切だと再認識した。担当者の言葉の指示は、どのような声かけが分かりやすいかを常に考えている。先生の指導を参考にしたいと思う。
- ・舌の左右にポン菓子をつける方法はぜひ試してみたいと思いました。
- ・「下あごを意識しながらの丸いべ口」の練習は両方を同時に行うので難しいけど、必要な練習であると

感じました。

- ・ひずみのある子は改善が難しいと聞きます。丁寧に指導されていて、頭が下がります。
 - ・資料が分かりやすかったです。
 - ・基本の大切さを再確認できました。子供のやる気、達成感を引き出す指導が参考になりました。
 - ・指導のプロセスがよく分かりました。参考になりました。
- 側音化構音の指導は微妙な調整と単調な繰り返しの練習のため子どもの指導意欲は上がりにくいですが、飽きないように工夫されたとても丁寧な指導の実践でした。指導前と指導後の実際の発音を聴くことができなくて残念でした。
- 側音化構音の指導を丁寧に行っていることがよくわかりました。子供の脱力した平らな舌が出来上がるまでの様子を写真で見ることができ、とても参考になりました。単調で繰り返しが続く練習は、多くの工夫が必要なことを共感します。
- 側音化構音の指導は微妙な調整と単調な繰り返しの練習のため子どもの指導意欲は上がりにくいですが、飽きないように工夫されたとても丁寧な指導の実践でした。指導前と指導後の実際の発音を聴くことができなくて残念でした。
- 側音化構音の指導を丁寧に行っていることがよくわかりました。子供の脱力した平らな舌が出来上がるまでの様子を写真で見ることができ、とても参考になりました。単調で繰り返しが続く練習は、多くの工夫が必要なことを共感します。
- ・菓子をういた指導は子供もうれしいし、感覚的にも分かりやすくて良いと思うが、コロナ禍でなかなかハードルが高いと感じている。
 - ・側音化の指導手順が分かりやすくまとめられていて、参考になった。
 - ・子音の練習をしている子の参考になった。側音化の改善は難しいが、他の音に聞こえなくなるようがんばりたい。
 - ・具体的な方法が分かり参考になった。基本の平舌の大切さを感じた。
 - ・とても熱心に長期にわたって頑張り続ける様子に、すごいと感じました。
 - ・幼児では難しいなあと感じました。お菓子が使えると意欲もわくし感覚も分かりやすいと思うのですが、現在はコロナ禍のため使用できません。マスクを外して口を露出する機会も多くはもてません。
 - ・力を抜くためには、力を入れることも意識できることが大切かなと感じて指導をしています。側音化について具体的な内容を知ることができました。今後の指導に役立てたいです。
 - ・側音化構音の指導は難しく、根気がいると感じています。小関先生の顎の開け方、舌の運動、舌の脱力維持の練習、鼻息鏡での呼気の確認、イ音の誘導、子音の誘導というスモールステップの段階を追った指導への取り組みは素晴らしいと思いました。発音指導は単調になりがちのところ、遊びの要素を取り入れ、子供が楽しく取り組める工夫がされていて、とても参考になりました。その子供に合った声掛けやアドバイスの言葉を見つけ出すことも、効果的な発音指導に通じるのだと思いました。これからも「できた。」という成就感を味わわせることができるような指導技術を高めていきたいと思っています。